

背景

ウガンダのムベンデ県では 2011 年以降、連続的な干ばつが起きており、森林伐採、耕作農業のための湿地帯への侵入など、人々の手による環境破壊が深刻な問題となっています。失業率も高く、人口の多くを占める女性や青少年は、収入源が限られ生活に困窮しており、生計を立てるために非常に原始的な農法で土地を耕しています。また気候変動による影響、環境破壊が発生する原因を理解しておらず、貧困で生計を立てられない人々が耕作地を求めた結果、こうした環境破壊へと繋がります。



以前は熱帯雨林だった土地が、耕作地を求めて燃やされ、焼け野原となった。

レモングラスのエッセンシャルオイル・ブレンド紅茶の生産・販売

Global Bridge Network (GBN) のパートナー団体である現地の NGO・SORAK は数年前から近隣のコミュニティの収入創出を目的に、レモングラス栽培とエッセンシャルオイルの生産・販売を行っています。また、レモングラスオイルをブレンドした紅茶も生産し、付加価値を提供しています。



製造過程の蒸留装置に興味津々で見学し、製品ができることに感動する若者たち



SORAK が生成したレモングラスのエッセンシャルオイル



SORAK の運営する蒸留場へ運ばれるレモングラス



SORAK が所有するエッセンシャルオイルの蒸留機。農家からレモングラスを収集し、ここでレモングラスのオイルを生成する。



1トン当たり可能な蒸留で、使い終わった草を取り出す。糖液や根覆いすると、畜牛の良い餌となる。

～環境教育・保全事業～

Global Bridge Network (GBN) は環境保護を実践するために、SORAK と連携し以下の活動を支援します。SORAK の今までの活動に加え、さらに学校の子どもたちへの環境教育、地域の女性・青少年へのレモングラス栽培のトレーニング、政策への働きかけをも行い、対象地域におけるレモングラス栽培の促進・拡大による環境保全を実施します。



ムベンデ県の痩せた土地



痩せた土地にレモングラスを栽培する農家と SORAK の代表(右端)

干ばつで痩せた土地に大量のレモングラスを栽培することは、土壌の浸食を防ぎ、環境保全に繋がります。さらに、農家からレモングラスを買い取り、レモングラスのエッセンシャルオイルや紅茶の商品開発及び販売を行うことで、農家のさらなる収入向上にも繋がります。

本事業は、地球環境基金様からの助成金により、2017年4月から実施することになりました。



事業名:レモングラスの栽培拡大と環境教育による環境保全事業
(ウガンダ共和国)

実施期間:2017年4月1日～2018年3月31日

実施場所:ウガンダ共和国ムベンデ県およびチエゲグワ県

受益者:約 5,050 名以上

(女性・青少年 200 名、児童 300 名×16 校、地域関係者 50 名、周辺地域の農家など)

目的:ウガンダの ムベンデ県と チエゲグワ県にて、不毛な土地におけるレモングラス栽培と環境教育を通して環境保全が促進される。

活動内容：

- ① 学校での環境教育、女性・青少年を対象にした環境保全・レモングラス栽培トレーニング
- ② 地方政府にする環境保全に関する政策や意思決定への働きかけ
- ③ レモングラスの栽培の拡大

GBN はレモングラス栽培による環境保全および収入向上として SORAK が実施する事業を代理団体としてサポートします。

GBN としては、ゆくゆくは SORAK が生産したレモングラスのエッセンシャルオイルやレモングラスの紅茶を日本でも販売できたらと考えております。

現地で生産されたレモングラスの香りのする紅茶を皆さまにお届けし、皆さまに楽しんでもらうことが現地への支援にも繋がる・・・そんなウガンダと日本との架け橋となれるよう、今後も現地と連携していきます。